

事業の背景・目的

サクラ等の樹木に食入・加害することで衰弱させ、生態系に甚大な被害を及ぼし、広域に渡り拡散する恐れのある特定外来生物クビアカツヤカミキリ対策として、ネット巻きや薬剤による防除が困難な被害木の伐倒を行い、館林市教育施設におけるクビアカツヤカミキリの防除を推進する。

事業の内容

・実績報告書（別紙10-3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

①被害木の伐倒事業

以下の条件を満たす被害木について、施設管理者が確認を行った上伐倒を行う。

- ・複数の侵入孔からフラスが排出されている
- ・手が届かない高さからフラスが排出されている
- ・枝からフラスが排出されている

初期の被害木については成虫の脱出防止のネット巻きや、樹幹注入剤による防除を行う。

②普及啓発事業

教育委員会を含む市関係各課全体で対策会議を実施し、被害木へのネット巻きや薬剤注入等の防除方法の周知を行うとともに、市民に対し、被害状況や対策についてホームページ、広報誌等を通じて周知を行う。

得られた成果

館林市教育施設の被害木7本の伐採を実施。

邑楽館林地域クビアカツヤカミキリ対策協議会と連携し、市が一体となって取り組み、広報誌等を通じ被害状況及び対策について周知していくことで事業効果の継続性を図る。

ネット巻きや薬剤による防除が困難な被害木の伐倒を行い、外来種であるクビアカツヤカミキリの拡散を防止する取組を継続して行う。